

これまでのグランドデザイン……40年の歩み

1982年、「大阪21世紀協会」は21世紀にふさわしい「世界都市・大阪」の創生をめざす「大阪21世紀計画」の推進団体として産官学が一体となって設立された。その計画推進のために進捗状況、時代背景などを踏まえて、数次にわたり『グランドデザイン』を掲げ、その内容に沿って活動してきた。

以下に各次のグランドデザインを概説する。

【第1次】（1982～）

「大阪21世紀計画」を掲げ、その推進のために

「基本理念」（都市基盤の充実、経済と文化の相互刺激の拡大）

「基本構想」（行事中心の長・短期ソフトウェア、施設整備を重点とするハードウェアづくり）

を提言し、推進のためのガイドライン「グランドデザインの基軸」を策定した。これをもって『グランドデザイン』（第1次）と位置付けている。

【第2次】（1992～）

1982年の発足から10年が経過。「グランドデザインの基軸」での提言が目的を達してきており、社会情勢の変化も鑑みて『新グランドデザイン』（第2次）を策定し、「文化立都」という概念を提唱した。（文化立都宣言）それにより、大阪の深い歴史を鑑み、これから目指すべき都市像を

「博物館都市」 「劇場都市」 「競技場都市」

と掲げて「文化立都」のイメージを明確化。その実現に向けての要素を提示した。

【第3次】（2003～）

『新グランドデザイン』策定から10年が経過し、大阪を取巻く社会経済環境は大きく変化した。人々の価値観も多様化している中で「文化立都」を検証し『グランドデザイン（第3次）』を策定。検証結果を基に「OSAKA VISION」を掲げ、これから大阪の目指すべき行動《3つの指針》、目標とする《8つの都市像》を提示した。

《3つの指針》

◇美しい都市・大阪の実現を図る ◇水の都・大阪を創生する ◇祝祭都市・大阪を目指す

《8つの都市像》

◇文化のハイブリッド都市 ◇未来の伝統都市 ◇エコロジカルな環境都市
◇人が主役の都市 ◇文化のプロデューサー都市 ◇文化・産業プラットフォーム都市
◇イメージ発信都市 ◇文化のムーブメント都市

【第4次】（2017～）

『グランドデザイン（第3次）』策定から14年が経過。その間、時代背景は変わり、当協会も公益財団法人に認定され（関西・大阪21世紀協会と改称）、また他団体の事業を承継するなど大きな環境変化を経て、『グランドデザイン（第4次）』を策定した。「文化立都」を普遍の理念とし、第3次の《3つの指針》《8つの都市像》を評価、継承するも、新たに《関西・大阪が目指すべき方向—5つの行動指針》を提唱し、「関西・大阪21世紀協会」の役割と進むべき方向を明示した。

《関西・大阪が目指すべき方向—5つの行動指針》

◇日本人の心を伝える ◇文化の担い手を育てる ◇文化による経済の活性化
◇文化プログラムの戦略的発信 ◇新たな広域文化経済圏を提示

※ **参考** 頁を参照